

有珠山

○2000年噴火域の全磁力変化

2000年新山域では、噴火終息後も顕著な全磁力変化が継続している（図1）。この地域では、NB火口付近の約500m深と、北西側地熱地帯のごく浅部にそれぞれ帯磁源が推定されている（図2）。NB火口の南側には、2003年からプロトン磁力計による連続観測を行っている磁気点NYCがあり、主に上記前者の帯磁源に関わる温度変化（冷却）を反映している。2008年頃に変化率の鈍化が認められる。気象庁札幌管区気象台の観測によれば、これとほぼ同時期に、NB火口の噴気温度が急激に低下している。これらのことから、噴火終息後の放熱活動は徐々に衰退しつつあることが想像される。

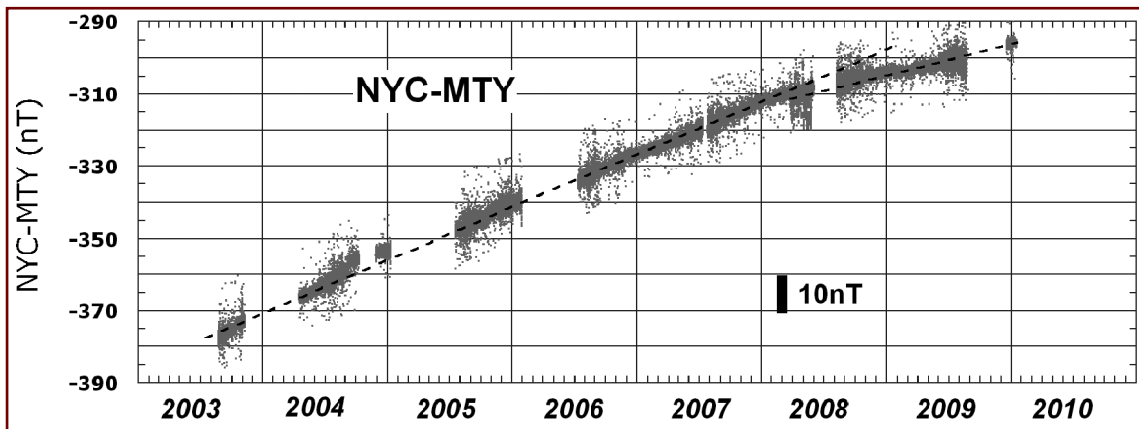


図1. NB火口南側の磁気点NYCにおける全磁力変化. MTYを参照点とした毎5分単純差.

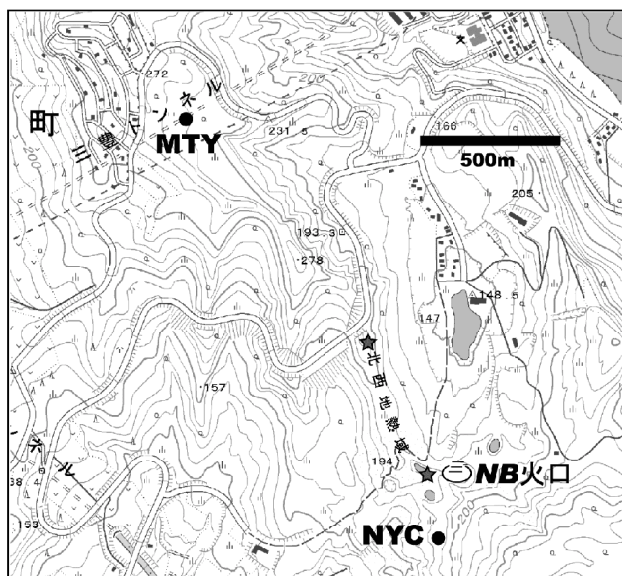


図2. 連続観測点の位置. MTYは参照点. ★印は地磁気変化（繰り返し測量）から推定されている帯磁源の位置. 本図の作成には、国土地理院のオンライン地図画像を使用した.